

アート×ジェンダーの視点からキッチンの歴史を紐解く講演会

# マイホームの夢とキッチン — 台所は女の城か？



— 1920年代、都市計画が進むドイツ。  
徹底した合理主義のもとで考案された新しい台所  
「フランクフルト・キッチン」の誕生は、  
ある一人の女性建築家の手によるものであった。

Margarete Schutte-Lihotzky, German, 1897-2000  
Frankfurt Kitchen, 1926-30  
Kitchen cabinetry and stove  
Minneapolis Institute of Art,  
Gift of funds from Regis Foundation, 2004.195  
Photo: Minneapolis Institute of Art

日時 2020年3月1日(日) 14:00~16:00

会場 アートフォーラムあざみ野 3階 生活工房

講師 田丸 理砂(フェリス女学院大学 教授)

参加費 500円 定員 40名(申込み先着順)

# アート×ジェンダーの視点から

## キッチンの歴史を紐解く講演会。

アートフォーラムあざみ野の「キッチン(生活工房)」を会場に開催。

高度経済成長と共に日本の住宅に普及した「システムキッチン(=住宅に作りつけられた台所セット)」は、現在の私たちの住居にも当たり前のように溶け込み、家庭においてなくてはならない存在です。

この「システムキッチン」の歴史をたどると、第一次世界大戦敗戦後のドイツで、経済発展を担った労働者のための住宅団地建設プロジェクトの中で誕生した「フランクフルト・キッチン」に結びつきます。家事の合理化と住居建築を関連付けることが重要視され設計されたこのキッチンは、当時の女性としてはまれにみる成功を遂げたウィーン出身の女性建築家マルガレーテ・シュッテ＝リホツキ(1897-2000)によるアイデアでした。

当時から女性の労働が本格化することを見据え、家事と仕事の二重負担の軽減を動機につくられたこのキッチンは社会や女性にとってどのような存在となっていたのでしょうか。リホツキの活躍とシステムキッチンの歴史をたどりながら、家事と建築の関わりを紐解いていきます。



田丸 理砂(たまる・りさ)

1963年生まれ。フェリス女学院大学国際交流学部教授。専門はドイツ文学、ジェンダー論。ドイツ言語圏の文化を中心に、「女性と表現」をテーマに研究。著書に『髪を切ってベルリンを駆ける！—ワイマール共和国のモダンガール』(フェリス女子学院、2010年)、『「女の子」という運動—ワイマール共和国末期のモダンガール』(春風社、2015年)。共著、編著に『ベルリンのモダンガール—1920年代を駆け抜けた女たち』(編著、2004年、三修社)、『ドイツ文学を担った女性たち—その活躍の軌跡』(共著、2008年、鳥影社)など。

### ■お申込み

来館 横浜市民ギャラリーあざみ野 2階事務室(受付時間9:00-20:30)  
※休館日:1/27(月)、2/24(月)

WEB ホームページの申込みフォームからお申し込みください。  
<https://artazamino.jp/event/azamino-salon-20200301/>  
※今後変更する可能性があります。

電話 横浜市民ギャラリーあざみ野(045-910-5656)までお電話ください。

※提供された個人情報は当事業実施のためだけに使用し、その他の目的で使用することはありません。

1歳6ヶ月～未就学児の保育あり。定員がありますのでご希望の方はお早めにお申し込みください。  
アートフォーラムあざみ野「子どもの部屋」 TEL 045-910-5724(予約制、有料)  
※2ヶ月～1歳5ヶ月児の保育についてはご相談ください。

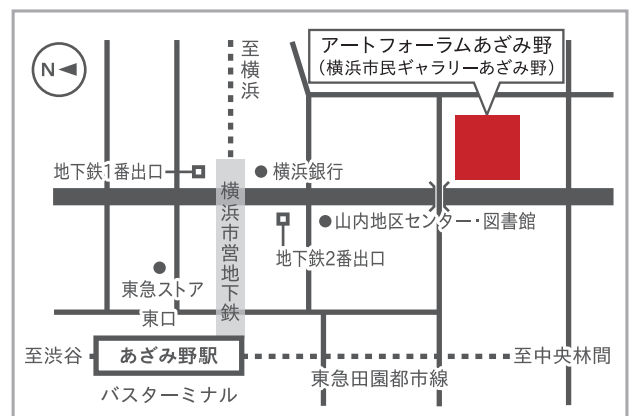
### ■お問合せ

横浜市民ギャラリーあざみ野(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

TEL 045-910-5656 FAX 045-910-5674

<http://artazamino.jp/> E-mail: [info@artazamino.jp](mailto:info@artazamino.jp)

### ■アクセス



〒225-0012 横浜市青葉区あざみ野南1-17-3 アートフォーラムあざみ野

最寄り駅

- 東急田園都市線「あざみ野駅」東口 徒歩5分
- 横浜市営地下鉄「あざみ野駅」1・2番出口 徒歩5分